



米子市埋蔵文化財センターたより



第56号

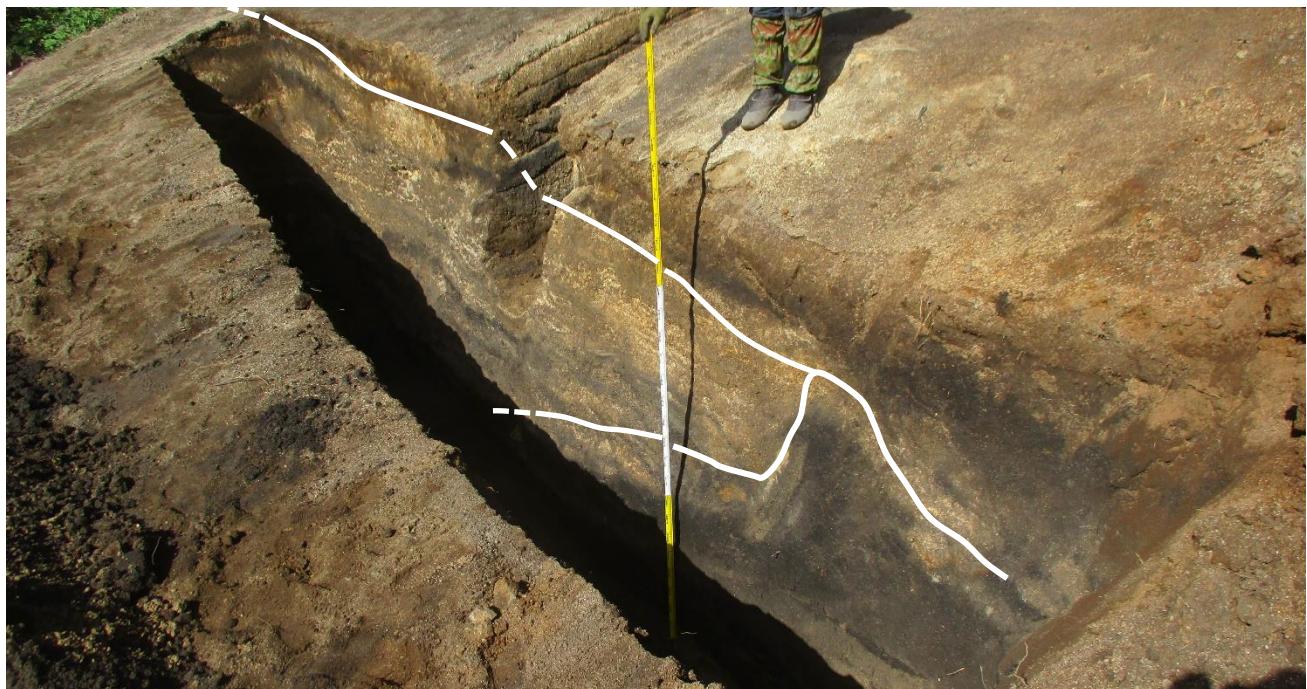
2025年3月

日南町 大原川平山たら跡 中世の鉄穴関連の遺構を検出か？

5月から発掘調査を実施した日南町下阿毘縁に所在する大原川平山たら跡は、10月に調査が終了しました。

調査の最終段階に尾根筋に直交する東西方向のトレンチ（細長い溝状の調査坑）の調査によって溝状の落ち込みの断面を確認しました。この溝状の落ち込みは、砂や粘土が互層状に堆積しており、可能性の一つとして鉄穴（かんな）に関わる水流によって堆積したと考えられます。時期を特定できる遺物が見つからっていないため、堆積した時期は不明ですが、この溝状の落ち込みは中世の製鉄炉（13世紀前半～中頃）や木炭窯（13世紀前半～中頃）よりも下層で確認されていることから、これらよりも古い時期のもので、13世紀前半～中頃以前の堆積と考えられます。トレンチ調査のみであるため、全体の形状や規模はわかりませんが、トレンチの断面では幅6.8m以上、深さ1.8m以上を測ります。

古代より製鉄が行われ、その原料として砂鉄が使われていますが、これまで中世以前の砂鉄を採取するための鉄穴を証明する考古学的な証拠は見つかっていません。今回見つかった溝状の落ち込みは、鉄穴に関連する確実な証拠は確認できず、農業用水等の他の用途も考えられますが、中世以前に鉄穴が行われていた可能性を示唆するものとして、今後の製鉄の歴史を考えていくうえでたいへん貴重な資料となるものです。（高橋）



鉄穴に関連する溝状の落ち込み（白線部分）

整 理 室 た よ り

— 土器の復元・修復 —

遺跡から出土する土器は、完全な形で見つかることはごく稀で、大部分が壊れた破片となって見つかります。その破片をジグソーパズルのようにくっつけますが、全ての破片が揃っていないことが多いので、欠けている部分にキューテックスと呼ばれる石膏のようなものを入れて復元や修復をして展示や写真撮影ができるようにします。

調査室では現在、小町越城野原第11遺跡から出土した須恵器の大甕の復元及び修復を行っています。大型の土器は小さな土器とは違い、キューテックスを入れるための型（かた）をつくった後にキューテックスを入れて、乾燥させるという作業を何回も繰り返さなければなりません。（高橋）



須恵器の大甕の復元作業

センター・資料館日誌

1月24日（金）出雲市文化財課の幡中氏が島遺跡出土縄文時代遺物の赤色顔料の採取で来館。

1月28日（火）～30日（木）島根大学の岩本准教授と島根県埋蔵文化財調査センターの松山氏が普段寺古墳出土土器の調査で来館。

2月26日（水）尚徳小学校3年生が古代学習及び古代体験で来館。

3月5日（水）～3月31日（月）米子市福市考古資料館企画展3「小町越城野原第11遺跡の発掘調査成果」を開催。

3月13日（木）岩村氏が分銅形土製品の調査で来館。

3月15日（土）第3回史跡ガイドウォーク「米子城下町」を開催。

3月22日（土）第4回史跡ガイドウォーク「米子城跡」を開催。

3月30日（日）第3回考古学講演会「小町越城野原第11遺跡の発掘調査成果」を実施。

発行日 令和7年3月31日
発行者 米子市埋蔵文化財センター
指定管理者（一財）米子市文化財団
電話 0859-26-0455
Eメール yonagomaibun@clear.ocn.ne.jp